WinKeeper v8.0 導入時注意事項

WinKeeper 導入時の注意事項について説明します。

動作環境について

マニュアルとreadme で動作環境の情報が異なる場合、readme が優先されます。

導入環境について

■ WinKeeper Server と WinKeeper Client が別セグメントの場合について

WinKeeper 各Server と各Client が別セグメントの場合、機能利用上、以下の制約が発生します。

- ・ WinKeeper 各Server と各Client 間で通信する Port が開いている必要があります。
- ・ WinKeeper 各Server からと各 Client の"電源 ON"を行う場合、Port 9 番が開いていること、ブロードキャストを通すネットワーク環境が必要となります。
- ・ ユーザ様のネットワーク環境によっては、WinKeeper 各Server と各Client の通信が不安定になることがあります。

■ 無線 LAN 環境でのネットワーク版利用について

無線 LAN 環境ではリモート電源 ON 機能は使用することができません。また回線スピード/安定性などの事由により、WinKeeper Server からの操作において、遅延が発生し同期処理などができないことがあります。

■ WinKeeper Client インストールにより使えなくなる機能

WinKeeper Client をインストールした PC では対話型ログオン(ctrl+alt+delete)が無効となり、ログオンダイアログが表示されます。

■ 多言語環境について

WinKeeper は日本語 OS 上への導入のみサポートしております。

また、ファイルやフォルダ名などに使われている言語および表示フォントは、全角/半角の日本語及び英語のみとなります。

■ AD 環境でのグループポリシーの適用について

仕様上、保護実行中にグループポリシー (GPO) が正常に適用できない場合があります。事前検証で問題がないことをご確認の上、運用設計を行ってください。

インストール・設定時の注意

■ WinKeeperClient インストール後の OS 連続稼働について

保護実行中の運用として、OS の連続稼働状態にはせず、最低一日一回は OS 再起動を行うようにしてください。

■ 保護実行/停止/終了の操作前の OS 再起動について

WinKeeper の保護実行、停止、終了をされる場合は、一度OS 再起動を行った上で実施をお願い致します。

※長時間連続稼働された状態で保護実行/停止/終了の操作を行った場合、OS 情報又はWinKeeper が破損する可能性があります。メモリ上の情報がなるべくクリアな状態で操作を行ってください。

■ 高速スタートアップについて

高速スタートアップ設定が有効の場合、OSが正常にシャットダウンされないことで、ファイルが想定通り消えない一時プロファイルでログオンするなどの事象が発生することがあるため、設定を無効にしての運用を推奨します。

■ 環境保護実行中の Windows Update 制限について

WinKeeper Client による環境保護実行中は、Windows Update の自動更新は無効化されます。(※WinKeeper Client の復元処理の中で、システムファイルの不整合が発生する恐れがあるため)

また、Windows Update を行う際は保護を停止(もしくは終了)して実行してください。

※保護停止の際にWindows Update を抑止する設定を外しておく必要があります。

■ 保護停止状態での Windows Update の停止について

「保護停止時に WindowsUpdate 動作を停止する」は WinKeeper Client にて行う設定となります。

また、インストール時は設定されていないため、必要に応じて設定を行ってください。

・ 設定方法

1. WinKeeper Client の[基本設定]-[フォルダ保護]を開きます。
2. 「保護停止時に WindowsUpdate 動作を停止する」項目にチェックを入れます。

■ Windows Update 実施後について

Windows Update 実施後は一度端末のWinKeeper 設定を保存または、1 台の端末設定サーバーから配布するなどの方法にて、設定情報を更新してください。

■ WindowsUpdate 更新アシスタントについて

Windows Update 及び更新アシスタントの処理は、WinKeeper 保護実行中は抑止されています。しかしながら、今後の仕様変更／追加等で、保護実行中に Windows Update が自動で行われてしまった場合、再発防止策のひとつとして以下の情報を参考に更新アシスタントの確認及び削除をお願い致します。

※更新された更新プログラム情報は復元できないことがありますので予めご了承ください。

■ 対応方法

「更新プログラムのアンインストール」メニューより、以下のプログラムが存在する場合はアンインストールしてください。

- ・ Update for Windows 10 for x64-based Systems(KB4023057)
 - ・ Windows Setup Remediations(x64)(KB4023057)
 - ・ Update for Windows 10 for x64-based Systems (KB4480730)
- +
- ・ Windows 10 更新アシスタント

※情報： — CHIeru 製品サポートサイト文書番号 311 より抜粋 —

URL <https://support.chieru.net/i/a/311>

■ 保護実行中の MS-Office へのサインインについて

WinKeeper Client v7.6 以降の初期設定では、保護実行中 MS-Office にサインインできない仕様となります。

後述する設定方法にて常時サインイン状態にすることが可能です。

■ 設定方法

- 1) 保護停止状態にします。
- 2) C:\Windows\KIP を開きます。
- 3) 配下にある”KPMainSettings.ini” のファイルを開きます。
- 4) [Enable]項目下に値を追記します。
値：MSAccount=1

5) MS-Office にサインインします。※常時サインインされない場合は省略ください。

6) 保護実行状態にします。

※複数ユーザでサインインされる場合、仕様により OS 上にアカウント情報が残る場合があります。事前検証で確かめながら、ご活用ください。

■ ネットワーク共有フォルダ等の資格情報について

WinKeeper Client の初期設定では、ファイルサーバーなど資格情報が必要なフォルダにアクセスする際は資格情報を保存せず、都度入力していただく必要があります。

後述する設定方法にて資格情報を保存することが可能です。

■ 設定方法

- 1) 保護停止状態にします。
- 2) C:\Windows\KP を開きます。
- 3) 配下にある”KPMainSettings.ini”のファイルを開きます。
- 4) [Enable]項目下に値を追記します。
値 : DomainCreds=1
- 5) 保護実行状態にします。

※本設定により、保護実行中も常に OS 上にログオンした資格情報が残るようになります。事前検証で確かめながら、ご活用ください。

■ デスクトップアイコンの設定について

WK インストール後は保護状態に関わらず、デスクトップアイコンの設定にてゴミ箱を非表示にすることはできません。

■ インストール時の権限について

WinKeeper のインストールは、管理者権限(administrator)を持つユーザでのログイン状態で実施してください。

■ Windows ストア アプリの制御について

Windows ストア アプリは、WinKeeper Client にて制御することはできません。ご了承ください。

■ リモート電源 ON 機能 (Wake On LAN) について

リモート電源ON 機能 (Wake On LAN) を利用する場合は学習者 PC にて以下の設定が必要です。

1. [コントロール パネル]-[システムとセキュリティ]-[電源オプション]を開きます。
2. [電源ボタンの動作の選択]を選択し、[現在利用可能ではない設定を変更します]をクリックします。
3. [高速スタートアップを有効にする (推奨)]のチェックを外し、[変更の保存]をクリックします。

※OS 再起動後に設定が反映されます。

■ WinKeeper Client 通信制御機能の解除

WinKeeper Client の通信制御機能は、機能上PC のシステムリソースに負荷をかける場合があります。通信制御機能をインストールしている環境にて、システムが正常に動作しない場合は、切り分けとして通信制御機能のアンインストールを実施し、動作をご確認ください。

■ WinKeeper Client のアンインストールについて

WinKeeper Client のアンインストールは必ず、保護停止、保護終了、アンインストールの順で行ってください。

■ インストール実行時のユーザアカウント制御について

インストーラ実行開始時、ユーザアカウント制御画面が表示されますので、「許可」にてインストールを続けてください。また、インストーラアイコンを右クリックして「管理者として実行」を選択することも可能です。

■ C ドライブ以外へのインストールについて

WinKeeper Client は、C ドライブ以外にインストールされた端末上では、正常に動作しません。WinKeeper Client は、デフォルトでC ドライブに対してインストールを行うため、システムドライブが Dドライブなどにある場合は、正常に復元などの処理が実行できなくなります。デュアルブート環境でご利用になる場合は、各パーティションがそれぞれCドライブとして認識されるように環境を作成してください。

■ OS のシステム復元機能

WindowsOS の「システム復元機能」と WinKeeper Client の保護機能が併用されることで、Windows のシステムファイルの断片化が促進され、OS 起動時にエラーが生じたり、ディスク容量を圧迫したりすることがあります。システム復元機能は「無効」にてご利用ください。

■ 異なる OS 間の保護設定のコピー/適用について

WinKeeper Client へ保護設定をコピー/適用する際、異なる OS に対して保護設定をコピーすることはできません。

■ WinKeeper Client 保護実行後の動作確認について

WinKeeper Client は保護実行後、自動でOS の再起動を行いません。最終的な動作確認は、保護実行後に必ず一度 OS 再起動を行ってから実施してください。

■ WinKeeper Client 保護開始直後の OS 再起動について

WinKeeper Client の[保護設定]から保護実行処理中に WinKeeper Client の OS 再起動を行うと、再起動後に正常起動しなくなることがあります。通常処理は数分で完了し、完了のダイアログが表示されますので、必ず保護実行処理完了後の完了ダイアログが消えてから OS 再起動を行ってください。

■ WinKeeper Client 保護実行中のスリープについて

保護実行中にスリープ機能が有効な場合、OS が不安定になることがあります。WinKeeper Client の保護実行を行う際は、スリープ状態にならないように設定した上でご利用ください。

■ フォルダ保護機能とレジストリ復元機能の併用について

フォルダ保護機能は、再起動毎に保護フォルダ内のファイルを元の状態に戻し、レジストリ復元機能は、再起動毎にレジストリ値を保護開始時の状態に戻します。どちらか片方のみを使用すると、データの整合性がとれなくなり、システムファイルが破損するなど、システムに深刻な被害を及ぼす恐れがあります。

ユーザ環境を復元するためにはどちらも不可欠な機能となり、システムを保護する場合は、フォルダ保護機能とレジストリ復元機能を必ず併用してください。

■ 自動ログオン設定時のドメイン名について

自動ログオン設定を行う場合、ドメイン名の入力ウィンドウが 20 文字に制限されています。

■ 自動ログオン設定について

自動ログオン設定はWindows OS 上からも可能ですが、WinKeeper Client が導入される環境での自動ログオン設定は、管理上、必ずWinKeeper Client より設定してください。

■ WinKeeper Server からのリモートログオンについて

WinKeeper Server から WinKeeper Client にリモートログオンする場合、WinKeeper Client の自動ログオン設定で [WinKeeper サーバの自動ログオン設定を使用]が選択されている必要があります。

■ アプリケーションインストール制限機能について

本機能では、特定のインストーラプログラムによるインストール行為を制限します。制限されるインストーラは、Microsoft Installer、Install Shield、IExpress の3種類です。プログラム実行制限機能と併用することで対応してください。(対象のインストーラプログラムの情報は、弊社サポートまでお問い合わせください)

■ タブレットでの利用について

- ・ WinKeeper Client をタブレットで使用する場合、画面を横向きの位置で固定して回転しないようにしてください。(縦向き表示の場合、画面が正常に表示できません。)
- ・ 「サーバー接続」時にパスワード入力画面がソフトウェアキーボードで隠れてしまいますが、パスワード入力画面のタイトルをドラッグして画面の位置を調整してください。

■ システム制限について

WinKeeper Client ではシステム制限を「禁止」(デフォルト)しての運用を推奨いたします。

※システム制限の各機能を「許可」にして運用した場合、OSの機能により設定変更を復元できない場合がありますのでご注意ください。

■ WinKeeper Server から WinKeeper Client の保護環境設定を開く場合について

WinKeeper Server から WinKeeper Client の保護環境設定を開く際に失敗する場合があります。

WinKeeper Server が導入されている PC の Windows Defender に、「C:\PKS」フォルダを除外フォルダとして登録いただくことで改善できます。

■ インターネット一時ファイルの削除機能について

インターネット一時ファイルの削除の対象ブラウザは Microsoft Edge となります。※2回再起動が必要な場合がございます。

チエル製品との同居について

■ リモートコントロールでの処理遅延について

チエル製品を含む画面転送機能を持つアプリケーションと同居した場合は、画面転送機能の処理が遅くなる場合があります。その場合は画面転送ドライバが競合している可能性がありますので、WinKeeper Client のリモートコントロール機能をアンインストールしてください。

■ WinKeeper Client と他チエル製品のロック機能について

WinKeeper Client のロック機能と他チエル製品(もしくは他社製品)のロック機能を併用しないでください。

■ WinKeeper Client 通信制御機能について

WinKeeper Client の通信制御機能と、他チエル製品(もしくは他社製品)の URL フィルタリング機能やポートフィルタリング機能などが同居している場合、使用するドライバ等のモジュールが競合を起し、システムが正常に動作しない可能性があります。通信制御機能をインストールしている環境にて、システムが正常に動作しない場合は、切り分けとして通信制御機能のアンインストールを実施し、動作をご確認ください。

Windows Defender との同居について

■ 競合回避について

WinKeeper のインストール時に Windows Defender が動作していると、WinKeeper インストール後、一部機能に問題が発生する場合がございますので競合回避を行ってください。

■ 対応方法

高度な機能の無効化

以下の手順より、Windows Defender の機能を無効にしてください。

- 1) Windows セキュリティより、ウイルスと脅威の防止をクリックします。
- 2) ウィルスと脅威の防止設定の「設定の管理」をクリックします。
- 3) 以下の機能を無効にします。
 - ・クラウド提供の保護
 - ・サンプルの自動送信

上記設定にて、WinKeeper のインストールを行った際に不具合が起きる場合がございますが、以下の機能をインストール時のみ無効にしてください。

- ・リアルタイム保護

■ 除外設定

WinKeeper をインストール後、以下の手順より除外設定を行ってください。

【Windows Defender】

- 1) Windows セキュリティより、ウイルスと脅威の防止をクリックします。
- 2) ウィルスと脅威の防止設定の「設定の管理」をクリックします
- 3) 除外の「除外の追加または削除」をクリックし、以下のフォルダの追加をしてください。
 - ・ WinKeeper クライアント
C:¥WINDOWS¥KP
※WinKeeper サーバーがインストールされている端末では以下の手順より除外設定を行ってください。
 - ・ WinKeeper サーバー
C:¥PKS

【WinKeeper】

以下のフォルダを、WinKeeper フォルダ保護設定画面にて”保護解除”にご変更ください。

C:¥ProgramData¥Microsoft¥Windows Defender
C:¥ProgramData¥Microsoft¥Windows Defender Advanced Threat Protection
C:¥Program Files¥Windows Defender
C:¥Program Files¥Windows Defender Advanced Threat Protection
C:¥Program Files (x86)¥Windows Defender

以下のレジストリを、WinKeeper レジストリ復元設定画面にて例外設定に追加してください。

・ 対象
¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows Defender
¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows Defender Security Center

他ウイルス対策ソフトとの同居について

■ プリインストールされているウイルス対策ソフトについて

プリインストールされているスタンドアロン版（クラウド版）のウイルス対策ソフトにつきましては、WinKeeper Client と同居した場合、競合により問題が発生する可能性があります。プリインストールされているウイルス対策ソフトはアンインストールしてください。

■ 競合回避設定について

WinKeeper Client とウイルス対策や資産管理ソフト製品を同居させている場合に、相互にシステムを監視するため端末における負荷が高まりマシンリソースを著しく消費する場合があります。

競合回避策として、以下の設定等を適用ください。

【ウイルス対策ソフト側の設定】

- ・ WinKeeper Client インストール時に作成されるフォルダをウイルススキャンの対象から除外する。
C:\Windows\KP フォルダ配下
- ・ ファイアウォールや改変対策、挙動監視などの付加機能を停止する。

【WinKeeper Client 側の設定】

- ・ ウイルス対策製品インストール時に作成されるフォルダを、WinKeeper Client の保護環境設定より保護解除する。
- ・ ウイルス対策製品のプロセスを、WinKeeper Client の保護環境設定より問題解決に登録する。

詳細は以下の技術情報をご参照ください。

<CHIERU 製品サポートサイト>

ウイルス対策ソフトと同居する場合の対応について

<https://support.chieru.net/j/a/302>

例]

TrendMicro ウィルスバスター コーポレートエディション XG(v12) / Apex One と同居する際の注意事項

- 対応方法ファイルアクセスに関する、相互の監視の競合を避けるため、WinKeeper 及び VB Corp / Apex One それぞれにて、下記の設定を施し改善がみられるかご確認ください。

【Trend Micro側】 [共通]

リアルタイム検索の保護除外対象に、以下のフォルダを追加してください。

- ・ C:\Windows\KP (※WinKeeper Client)
- ・ C:\PKS (※WinKeeper Server)

以下の設定を無効に設定してください。

- ・ 挙動監視設定
- ・ イベント監視設定
- ・ デバイスコントロール
- ・ クライアントセルフプロテクション
- ・ 不正変更防止サービス
- ・ 高度な保護サービス
- ・ ファイアウォール(ご利用の場合のみ)

検索モードがスマートスキャンに設定されている場合、従来型スキャンへ変更してください。

上記の設定にて、OS や WinKeeper の動作が不安定な場合は、信頼済みプログラムリストに下記の手順でプロセスを登録してください。

エージェント管理 > 設定 > 信頼済みプログラムリストに以下を追加します。

- ・ 安定性向上のための追加設定。
C:\Windows\KP\KPMMain.exe
C:\Windows\KP\KPMMainUser.exe
C:\Windows\KP\KPRegwatch64.exe
C:\Windows\KP\KPGPE\kgpge64.exe
- ・ Winkeeper Server/Client間通信安定化のための追加設定。
C:\Windows\KP\KMQCnt.exe
C:\PKS\KMQServer.exe

【WinKeeper側】

以下のフォルダを、WinKeeper フォルダ保護設定画面にて“保護解除”にご変更ください。

- ・ C:\Program Files\Trend Micro
- ・ C:\Program Data\Trend Micro
- ・ C:\User\All Users\Trend Micro

上記の設定にて、OS の動作が不安定な場合は、問題解決に下記のプロセスを登録してください。

・ 対象プロセス

<インストールフォルダ>\Trend Micro\BM\TMBMSRV.exe
<インストールフォルダ>\Trend Micro\OfficeScan\PccNTMon.exe
<インストールフォルダ>\Trend Micro\OfficeScan\NTRtscan.exe
<インストールフォルダ>\Trend Micro\OfficeScan\TmListen.exe

※CHIERU 製品サポートサイト文書番号 305 より抜粋

URL <https://support.chieru.net/i/a/305>

その他

■ 他社製品の自動アップデートについて

他社製品の自動アップデートなどは、WinKeeper 保護中は停止して頂くことを推奨いたします。
またアップデート中に保護をかけることは負荷の原因となりますのでお控えください。

■ 通信制御のウェブブラウザ 許可/遮断について

ウェブブラウザの許可及び遮断は http が制御対象となり、https は制御できません。

■ 復旧時のシステムフォルダ変更について

Windows 障害時に、Windows のOS 復旧機能を使用すると、システムフォルダのファイルパスが変更になる場合があります。(例:C:\Windows > C:\Windows.000)

このような状態になった場合正常に WinKeeper Client が動作しませんので、正常な状態へ復元してご利用ください。

■ WinKeeper Server からリモート電源 ON ができない

- 1) BIOS の設定でWake On LAN の機能が有効になっているかご確認下さい。
- 2) デバイスマネージャでNICのプロパティの詳細設定タブでWake Up Capabilities の値が[Magic Packet]になっているかご確認下さい。
- 3) 他電源管理ソフトにて電源管理ができるかご確認下さい。
- 4) WinKeeper Server にて、電源ON ができないWinKeeper Client PC を一度削除し、 WinKeeper Server および WinKeeper Client を再起動してください。その後再度 Serverより一斉接続、もしくは Client から Server 接続して登録して実行できるかご確認下さい。

■ ボリュームアクティベーション 2.0 について

アクティベーション処理は「保護停止」または「終了」状態で実行を推奨致します。

なお「キー マネジメントシステム (KMS)」方式の場合、180 日以内にアクティベーションを更新する必要がありますのでご注意ください。

■ プログラム実行管理での制限対象について

"すべてのプログラムを実行禁止"にする場合、実行禁止の対象となるプログラムはWindows スタートメニューの配下に登録されるすべてのプログラムとなります。

■ 保護実行中のフォルダ移動について

保護実行中は、保護設定されたフォルダを他の保護設定されたフォルダに移動することができません。

■ ボリュームラベルの名称変更について

ローカルドライブ(C:等)のプロパティから、ボリュームラベルに文字を入力した場合、再起動後も復元されません。

■ 曜日が重なるタスクについて

曜日と時間が重複するタスクを作成した場合、同時刻に複数のタスクが同時に実行され、障害が発生する可能性があります。(例:「毎日/12:00」と「火曜日/12:00」で重複している) タスクの時刻や日時が重複しないように設定してください。

■ 異なるバージョンの Client 管理について

異なるバージョン(例:v7.x と v8.x 等)の組み合わせによるWinKeeper Client の一元管理はサポートしておりません。

■ ライセンスキーの変更について

WinKeeper Client のライセンスキー変更機能により、登録したライセンスキーを変更することができます。この変更結果は、設定コピー機能では変更できませんのでご注意ください。

■ 保護実行中の設定変更について

保護実行中に以下の設定を変更した時、設定変更後 1 分以内に再起動すると、設定が復元されないことがあります。以下の設定を変更した場合は必ず 1 分以上時間をおいてから再起動をしてください。

- ・ 解像度
- ・ グラフィックオプション
- ・ グラフィックプロパティ
- ・ モニターの複製/拡張

■ 保護実行中の（フォルダの共有設定）設定変更について

保護実行中はフォルダの共有設定を開くことはできません。共有設定をする場合は、保護を停止して実施してください。